

製品安全データシート

JH-M602

作成 : 2018/2/20  
改訂 : 2022/9/1

● 項目1 化学品及び会社情報

化学品の名称

JH-M602 シランカップリング剤  
N-(2-aminoethyl)-3-aminopropylmethyldimethoxysilane  
3-(2-アミノエチルアミノプロピル)ジメトキシメチルシラン

会社名  
住所

Hubei Jiangnan New Materials Co.,Ltd. 湖北江瀚新材料股  
No.36,Qunli Road,Shashi Economic Technology Developing Zone,  
Shashi District,Jingzhou City,Hubei,China 434005

担当部署  
担当者(作成者)  
電話番号  
FAX番号  
メールアドレス  
緊急連絡先番号

+86-716-8377819  
+86-716-8377812

販売代理店  
住所  
電話番号  
FAX  
メールアドレス  
HP

サンケミカル株式会社  
東京都中央区日本橋小伝馬町2番4号 三報ビルディング  
03-3661-6681  
03-3661-7055  
yano@sun-chemical.co.jp  
<http://www.sun-chemical.co.jp/>

推奨用途及び使用上の注意

シランカップリング剤

★ 項目2 危険有害性の要約

GHSの分類

物理化学的危険性:

健康に対する有害性:

眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性 区分1  
皮膚感作性 区分1

環境に対する有害性:

分類	内容
区分1~4	数字が小さい方が危険・有害性が高い。1(危険)>4(比較的安全)
区分に該当しない	数字で表示される区分より安全性が高い。
分類できない	分類に有効なデータが無く、有害なのか安全なのか、分からない。
分類対象外	この項目には無関係な製品。例えば、固体の製品では「自然発火性液体」の項目で、分類対象外になる。



- GHSのラベル要素
- 絵表示又はシンボル

- 注意喚起語 危険

- 危険有害性情報
  - H302 飲み込むと有毒
  - H315 皮膚刺激
  - H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
  - H318 重篤な眼の損傷

- 注意書き

**【安全対策】**

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
使用前に取扱説明書を入手すること。

P261 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。  
P264 取扱後は手をよく洗うこと。

P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。  
P305+P351+P338 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。  
次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。  
その後も洗浄を続けること。

P301+330+331 飲み込んだ場合、口をよくすすぐ。無理に吐き出さない。  
P310 医師の診断をうけること。  
P330+313 皮膚に刺激や発赤がある場合、すぐに医師の診断を受けること。  
P362+364 汚染された衣類は再使用前に洗うこと。  
P501 法令条例に従い廃棄処分すること。

項目3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

工業純品

化学名又は一般名

3-(2-アミノエチルアミノプロピル)ジメチルシラン

別名

N-アミノエチル化アミノプロピルメチルジアルコキシ シラン

化学特性

CAS番号

3069-29-2

成分及び濃度又は濃度範囲(含有率)

≥98.0%

官報公示整理番号(化審法、安衛法)

2-2084

無し

GHS分類に寄与する不純物及び安定化添加物

その他含有物

名前	CAS	EC	化審法	濃度
メタノール	67-56-1	200-659-6	2-201	0.5%
ダイマー	N/A	N/A	N/A	1.0%
3-Chloropropyl methyl dimethoxysilane	18171-19-2	242-056-0	□ 2-2078	0.5%

---

#### ▲ 項目4 応急処置

吸入した場合	吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 吸入した場合、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚に付着した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。 汚染された衣類をすべて脱ぐこと。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
眼に入った場合	眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。 次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼に入った場合、眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	飲み込んだ場合、口をすすぐこと。 飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状  
詳細な徴候及び症状は、項目11－有害性情報に記載する

応急処置をする者の保護	救助者はゴム手袋、密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。
医師に対する特別な注意事項	データ無し
毒劇物の場合、解毒剤	非該当

---

#### 項目5 火災時の措置

消火剤	水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス
使ってはならない消火剤	データ無し
火災時の措置に関する特有の危険有害性	燃焼や高温により分解し、有毒なヒュームを発生する恐れがあるので注意する。
特有の消火方法	消火作業は、風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いる。 関係者以外は安全な場所に退去させる。 周辺火災時、容器に水を噴霧して冷却する。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火を行う者の特別な保護具及び予防措置

保護手袋  
安全グラス  
保護具  
可能なら自給式呼吸機器を備えること。

---

項目6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置

保護具を着用すること。蒸気、ミスト、ガスの吸引をしないこと。  
十分な換気をして下さい。

汚染場所から離れる事。関係のない人を避難させること。換気をする事。  
項目8を参照ください。

保護具を着用すること。蒸気、ミスト、ガスの吸引を避けること。  
換気のよい状態を確実にすること。

環境に対する注意事項

下水、環境に排出しないこと。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

不活性物質で吸収し、危険物として処分すること。  
適切な容器に密閉して処分すること。

非活性物質で吸収し、危険廃棄物として処理すること。  
密閉した適切な容器で処理すること。

二次災害の防止策

付近の着火源、高温体などを速やかに取り除く。  
着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。  
火花を発生しない安全な用具を使用する。

---

▲ 項目7 取扱い及び保管上の注意  
取扱い

技術的対策  
(局所排気、全体換気)

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、  
保護具を着用する。  
「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。

安全取扱注意事項

眼と皮膚の接触を避ける。  
蒸気ミストの吸引を避ける。  
着火源から遠ざける。  
禁煙(火が付くため)  
耐静電気。

接触回避

「10. 安定性及び反応性」を参照。

衛生対策

容器は密閉すること。汚染された衣類は直ぐに脱ぐこと。  
廃棄物を下水に流さないこと。

保管

安全な保管条件

涼しい場所で保管すること。  
容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所で保管して下さい。  
不活性ガスの元で保管すること。  
湿気に注意。  
容器を開けたままにしないこと。

近づけてはいけないもの

安全な保管保管包装材料

元の容器

---

▲ 項目8 暴露防止及び保護措置

許容濃度等

日本産業衛生学会(2005年版)  
ACGIH(2005年)

未設定  
未設定

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。  
作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。または換気を行うこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。

アース線の設置を行うこと。裸火、熱に近づけない事。水を含んだ物質を近づけないこと。  
引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用すること。  
粒子状の場合、耐火、耐爆発の設備を使用すること。  
呼吸器官を保護、もしくは局所、全体換気の管理で作業を行うこと。  
厳格な衛生管理の下で作業し、容器は密閉し、作業中の飲食と喫煙は避けること。

保護具

呼吸用保護具

リスクアセスメントで、空気浄化呼吸機器が適切な場所では、  
multipurpose combination(US)か、type ABEK(EN 14387)の  
呼吸器の保護具を予備として所持しておく。  
もし呼吸機器が唯一の保護方法の場合、顔を覆う酸素を供給する

	呼吸器の保護具を着用すること。 呼吸器の保護具はNIOSH(US)かCEN(EN)認定の物が望ましい。
手の保護具	(EU Directive 89/686/EEC)(EN374)の規格に合致したもの。
眼の保護具	顔を覆う保護具と安全ゴーグル
皮膚及び身体の保護具	職場の曝露状況に対応した保護具
特別な注意事項	産業衛生を遵守し、安全に取り扱う。 毎回食事の前、作業終了時に手を洗うこと。

---

#### 項目9 物理的及び化学的性質

物理的状态	液体
色	無色透明
臭い	データ無し
融点・凝固点	データ無し
沸点又は初留点及び沸騰範囲	265°C(760 mmHg)
可燃性	
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	70°C(密閉)
自然発火点	
分解温度	データ無し
pH	10.6(10g/L 20°C)
動粘性率	データ無し
溶解度	データ無し
n-オクタノール/水分配係数(Log値)	
蒸気圧	N/A
密度及び/又は相対密度	0.970g/ml (20°C)
相対ガス密度	データ無し
粒子特性	データ無し
その他のデータ	
屈折率	1.445(25°C)

---

#### ● 項目10 安定性及び反応性

反応性	引火点以上の場合、可燃性と爆発性の危険がある。 物質は中性反応をする。
化学的安定性	通常は安定。
危険有害反応可能性	熱に触れると、酸とアルコールの蒸気に着火する。
避けるべき条件 (静電放電、衝撃、振動など)	強酸化剤、強塩基、熱、火花 引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。
混触危険物質	強酸化剤、強塩基、
危険有害な分解生成物 その他	一酸化炭素、一酸化窒素、酸化ケイ素

---

#### ★ 項目11 有害情報

急性毒性	オリジナルSDSの記載 LD50/経口/ラット/ >2000mg/kg
皮膚腐食性/皮膚刺激性	ウサギ/ゆるやかな皮膚の刺激/24h
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	データ無し
呼吸器感作性又は皮膚感作性	皮膚にアレルギー反応を起こすおそれがある。
生殖細胞変異原性	データ無し
発がん性	IARCで、発がん評価されている物質を0.1%以上含有していない。

生殖毒性  
データ無し

特定標的臓器毒性、単回曝露  
データ無し

特定標的臓器毒性、反復曝露  
データ無し

誤嚥有害性  
データ無し

その他

---

項目12 環境毒性情報

生態毒性  
データ無し

残留性・分解性  
データ無し

生態蓄積性  
データ無し

土壤中の移動性  
データ無し

オゾン層への有害性  
データ無し

他の有害影響  
データ無し

---

▲ 項目13 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい破棄、又はリサイクルに関する情報

残余廃棄物	アフターバーナーとスクラバーを備えた化学用焼却炉で焼却する。 処分場所の法令を遵守すること。 廃棄物業者に連絡をとること。
汚染容器及び包装	危険廃棄物として処分すること。

---

項目14 輸送上の注意

国際規制 国連番号 品名(国連輸送名)	非該当 非該当
国連分類 (輸送における危険有害性クラス)	非該当
容器等級 海洋汚染物質 (該当・非該当)	非該当 非該当
MARPOL73/78附属書II及び IBCコードによるばら積み輸送される液体物質 (該当・非該当)	
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	
国内規制がある場合の規制情報	
その他 応急措置指針番号	非該当

---

項目15 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報  
化管法 非該当

安衛法	メタノール 表示通知対象物質に該当
毒劇法	非該当
火薬類取締法	非該当
高圧ガス保安法	非該当
消防法	第4類第3石油類 水溶性液体
化審法	既存化学物質
船舶安全法	非該当
航空法	非該当
パーゼル法	データ無し
外為法	データ無し
	キャッチオール規制
港則法	データ無し

その他の適用される法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

---

項目16 その他の情報

安全上重要であるが、これまでの項目名に直接関係しない情報  
引用文献

オリジナルMSDS  
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 NITE  
職場のあんぜんサイト  
2016年版 16716の化学商品

その他

注意:

- ・危険有害性の評価はかならずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。
- ・この製品安全データシートは、当社の製品を適切にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の実用性を対象としたものです。
- ・本製品は、この製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。
- ・ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保障もするものではありません。また法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。

---

赤字	必須情報	★	リスクアセスメント必須事項
青字	可能なら記載する情報	●	ラベルに記載する情報
黒字	無くても良い情報	▲	安衛法ラベルの注意書きの項目
色分け	2019年改正JIS Z7252/Z7253		(但し、ラベルに全て載せる必要はない)